

令和6年度第1回学校魅力強化委員会報告

開催日	令和6年5月29日（水） 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15:00～17:00
出席者数	委員10名 事務局6名 職員6名
出席者氏名	委員：江口、内野、川崎、岡、田中、林、上原、鴨川、門田、溝口 事務局：森、江口、塚本、谷口、山田翔、野見山 職員：三原、香田、西村、城ヶ崎、糸山、野口
会議次第	1 開会 2 学校長挨拶 3 任命状交付及び委員自己紹介 4 会長・副会長の選出 5 議事 (1) 学校魅力強化委員会及び SAGA コラボレーション・スクール (SCS) について (2) 令和6年度グランドデザインについて (3) 令和6年度学校評価計画について (4) 1年総合的な探究の時間「地域を知る日（仮）」について 6 部会編成 7 今後の方向性について 8 閉会 委員会終了後、第1回各部会

議事録

5 議事

(1) 学校魅力強化委員会及び SAGA コラボレーション・スクール (SCS) について

校長：SCS 事業3年目。コロナで各種活動に制限が多い時期ではあったが、昨年からは以前通りいろいろなフィールドワークにも行けるようになった。

文科省はそれぞれの学校での学びを大切にしながら「何ができるようになるのか」ということを求めている。変化の激しい時代、学校の学びに加え、外の活動も加えながら「どのような学びに繋がるか」を明記したプログラムを委員の皆様力を借りながら考えていけたらと思っている。本校は両学科ともに進路保障についてはある程度うまくいっているが、生徒募集については厳しい年が続いているのも現実である。地元はじめ県内外の生徒から選ばれる学校を目指していきたい。

(2) グランドデザインについて

委員1：「あなた専用」は「各自専用」や「各人専用」にしたほうが良いのではないかと。また、スクールポリシーの表現が一箇所もたついている部分があるので直した方がよい。

委員2：校舎制については永遠かつ究極の課題。生徒も職員も本当に不便。白石高校が存続していくためにも校舎を一つにして魅力を作っていくかといけないと思う。

委員3：AIを用いたとあるが、具体的には？

校長：昨年度から「スタディサプリ」を導入している。自分で学ぶ力を付けさせたいので導入している。放課後や朝、自習時間等に動画を見て学んでいる姿を見かける。

委員4：日常的にAIを使った学習をされているのか？定期的にされているのか。

校長：テスト後、AIが選ぶ「その人が出来なかった問題に関する映像」が配信されるので、生徒はそれを見て定着を図るというシステム。年間2～3回行って定着をさせるという仕組み。できる生徒達はすぐ終わるので、別の問題に取り組んでいる。

委員3：委員2の案に賛成。学科は違っても同じ学校の生徒たちは同じ校舎の中で一緒に学校生活を送るといいと思う。ところで、遠方から来ている生徒のための学校寮のような施設ができないものか。それが出来たらそれも魅力の一つになるはずだ。

委員5：本音をいうと、普Cと商Cは別々の学校だと日々感じている。このグランドデザインを見てもそう見える。根本的なところは両Cとも生徒にとっては同じで、しっかりとした基礎学力を身につけて生涯に渡って主体的に学んでいくということが大切。それがもう少し伝わるデザインにした方がよい。

委員1：商業科の「夢を形にできるように」の後を、「一人一人に商業の専門的な知識・技術と商業人として主体的に学ぶ態度を育成します。」にすると良いのでは。

校長：スクールミッションは県からの通達であるため変更できない。スクールポリシーについては、令和6年度はこのままでいくが、令和7年度は今回の意見などを参考に検討させていただく。

委員6：中学生目線で考えた時、「こんな生徒を募集します」のところの表現が固い。

委員1：グラデュエーションポリシーとカリキュラムポリシーは確かにしっかり見えている方がよいと思うが、今はこの部分が少し大きすぎて、アドミッションポリシーが付け足しのように見えるので、もう少し

し一つ一つ見えるようにしてあげたらいいのではないか。

事務局：ご意見ありがとうございます。ランドデザインについては皆様の意見をもとに修正します。

委員 7：県提出及び HP 掲載用ランドデザインはこれとして、中学生やその保護者へ配布する生徒募集に関わるパンフレット等では、戦略的に何をどう強調するのかなど議論する価値がありそうだ。白石高校に何が必要なのか、受験者を増やすためや学校の魅力的を伝えるためにはどうすべきなのか、それについて今後のこの委員会で話し合ってみたいと思う。

(3) 学校評価について

委員 3：成果指標をあげられているが、これは去年以上の数値を挙げられているのか。また、生徒へのアンケートは年何回取られているのか。

事務局：成果指標は昨年度から上げたものもあれば昨年度と同じものもある。昨年度目標達成が出来なかったため昨年度と同じ指標にしているというものもある。アンケートは、生徒に年に 2 回、7 月と 12 月、保護者には年 1 回、12 月に取っている。

(4) 1 年総合的な探究の時間「地域を知る日（仮）」について

事務局：1 年生総合的な探究の時間で「地域の課題を知る」「地域と繋がる」目的で、1 年生の 11 月にコース別に地域の各地を訪れる「地域を知る日（仮）」を予定している。そこで委員の皆様は 1 年生に見てほしい地区を挙げてもらいたい。

各委員から：白木パノラマ孔園、歌垣山、福富堤防、炭鉱の歴史、長崎街道、白石商店街等多数意見

委員 2：歴史や産業、いろいろあるが、一日しかないのであればあまり欲張れない。

委員 7：いろんなポイントが 3 町の中にあるので、そういうポイントをクエスト的にバラバラに回るのもいいのではないか。バスということにとらわれずに、自転車で各々がポイントを回り謎解きゲームなどをするなどが楽しそうではあるなど感じた。周遊コースを作るのも良いと思う。

事務局：非常に面白そう。景色が綺麗な場所が多いので写真を撮ってきてコンテスト等しても良いですね。

委員 3：例えば景色が一望できる場所であれば産業や歴史など全部を見ながら学ぶことができる。

事務局：場所、産業、歴史などを繋いでくれる地域の方を今後ご紹介していただけたらと思っています。

委員 8：良い場所もあれば課題もある。その課題に生徒たちが気付き、どうしたらいいかを考えてもらう機会づくりは大切。

事務局：今回出た意見を参考にコースなどを考えていきたいと思っています。

6 部会編成

学校評価部会 …江口、内野、川崎 地域連携部会 … 上原、林、田中
小中校連携部会…岡、門田 広報・情報発信部会…喜多、鴨川

7 今後の方向性について

学校長：SCS 事業は今年度で終わるが、今後も生徒たちの新たな学び、探究的な学びや課題解決能力など、これから必要となっていく力を付けるために、地域と連携した活動を今後も続けていきたいと思っている。そうした時に現在コーディネーターが担ってくれている地域との橋渡し役をどうするかが課題となってくる。今後は、地域の方と繋がる仕組みづくりを委員の皆様のを借りながら作っていききたいと思っている。第二回目の委員会で話していけたらと思っている。

また、両 C 共通の学びとしての総合的な探究の時間について、3 年間のプログラムを作り上げていくが、その中に地域と連携した活動を組み込んでいく。地域と学校がお互いプラスとなるような形でこの活動を続けていきたいと思っている。

委員 7：実は私の周囲で白石高校と連携したい、白石高校生と一緒に商品開発等して一緒に勉強したいと言っている若い経営者、農家、食品加工の方が増えている。それは例えば須古の「こどもくんち」で白石高校生が成果を上げて頑張ってくれているが、そのように地域で白石高校生が積極的に活動してくれているということが地域に浸透してきているからだと思う。

地域とのコラボレーションが確実に地域の元気につながっているということ。このことは先生方も認識いただきたい。改めて感謝申し上げ、今後もこの流れは続けていっていただきたい。そのためにもコーディネーターの役割をどうするか、地域との窓口となるリエゾン是谁かということを示しつつ校内体制づくりを行ってほしい。

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報		
	その他（ 学校 HP に掲載 ）					